

1 本年度の重点目標

「学び合い、認め合い、きたえ合う 若葉っ子」

分野	評価項目	自己評価		学校関係者評価	
		達成状況	改善の方策	自己評価の適切さ	改善策の適切さ
経営方針の重点	主体的・対話的で深い学びの実現と確かな学力を育む指導の工夫改善	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>ICT 等も効果的に活用しながら工夫して授業改善を行い、学びの保障を進めた。NRT や全国学力・学習状況調査の結果分析等も踏まえ、学力向上委員会を定期的に開催し、統一した指導を進めた。</li> <li>◎学校改善プランにおける指導を組織的に継続して取り組んでいく。また、合同授業や交換授業、少人数指導等も取り入れ、改善ポイントを意識して推進していく。</li> </ul>	A	A
	効果的な教育活動を推進する働き方改革の実施	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>「勤務時間を意識した働き方」や「業務の効率化、スリム化」の取組が進んでいるが、昨年度と比べ、きめ細やかな教材研究のため平均時間外勤務が増加していた。</li> <li>◎会議等の運営をさらに工夫するなど、業務においてスリム化、効率化、平準化を進め、効果的で質の高い教育活動が推進できるように働き方改革に取り組んでいく。</li> </ul>	A	A
教育課程・学習指導	「対話」を重視した、子どもたちが活躍する授業づくりによる、資質・能力の向上	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>校内研究で、国語科において対話を重視した授業づくりを進めてきた。子どもに合った安心感ある指導、子どもが中心の授業改革に取り組んできた。昨年度より、協働的な学びの充実が図られた。</li> <li>◎今後も授業改革を進めていき、「個別最適な学び」と「協働的な学び」を一体的に推進していく。</li> </ul>	A	A
	子どもが考えをまとめたり、他者との協働的な学びを進めたりするための ICT (タブレット端末等) の有効活用	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>「えべつ情報活用能力を育む学習プログラム」を基に、特に低学年は、タブレット端末に慣れるところからスタートし活用を進めた。昨年度より、使用頻度も高まり、身近なものとなっている。また、協働的な学びを進めるためのツールの一つとしてタブレット端末の「スマイルノート」を活用した。</li> <li>◎他者の考えを知り、自分の考えを深めるための効果的な活用方法について今後も研修を深めていく。</li> </ul>	A	A
	支援を必要とする児童や、一人一人のニーズに応じた特別支援教育の充実	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>特別支援教育コーディネーターを中心に情報を共有し、組織的な支援体制を強化して指導を進めた。</li> <li>保護者や各関係機関との連携を強化し、対応の充実に図ってきた。</li> <li>◎個別の支援を充実させるために、さらに組織体制を改善し、個に応じた指導方法を工夫していく。</li> </ul>	A	A

生徒指導	基本的な生活習慣の定着とときまりを守る態度の育成	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・中学校区での生活のきまりに基づき、4期に分けて共通した目標を設定し意識の向上を図ってきた。また4校で時期を合わせたあいさつ運動も実施した。児童会の書記局や生活委員会主催のあいさつ運動も実施された。ふれあい集会では縦割り班でクイズに挑戦しながら校舎内を探検し、学習・生活規律を学んだ。</li> <li>◎今後もあいさつや廊下歩行、チャイム席、姿勢など、目標を焦点化して指導していく。</li> </ul>	A	A
	いじめ・不登校の未然防止、問題行動等への早期・組織的対応、共感的理解を通じた好ましい人間関係の確立	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・いじめ対策委員会、いじめアンケート（3回）、学年部会、週1回の職員集会、生徒指導委員会等を生かし、情報を共有し、素早く組織的に対応した。</li> <li>・校内適応指導教室を運用することにより、家庭や各関係機関と連携し共有感をもち、子どもの居場所づくりを進めた。</li> <li>◎発達支持的生徒指導を基盤とし、共感的な人間関係と援助希求的態度の育成、自己有用感を高める指導を行う。</li> <li>◎各関係機関と連携し、個別相談や定期的なケース会議の実施等、きめ細やかな対応を進めていく。</li> </ul>	A	A
健康な体作り	パワーアップタイムの取組など、課題の焦点化と体力向上に向けた具体的実践	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・なわとび検定や外部講師による走り方教室や体幹を鍛えるエクササイズ、体育エキスパート教員との授業等、体力向上のための取組を進めた。</li> <li>◎新体力テストの分析から「体力向上プラン」を今年度中に作成し、授業改善や運動の機会の増加、体力向上への意識を高め取り組めるようなさらなる環境整備を行う。</li> </ul>	A	A
	安心安全な教育環境への配慮や、健康教育・安全教育の充実	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・熱中症対策については、熱中症警戒アラートの確認や熱中症指数モニターの活用、スポットクーラーの活用、水分補給の呼びかけなどの取組を進めた。</li> <li>・校内外で安心安全な教育活動が進められるよう、施設等の徹底や玄関前での登下校指導等、危機管理体制の再確認と不審者対策等の研修を実施した。</li> <li>◎情報を素早く共有し、組織的な対応を進める。保護者や地域と協力・連携のもと、校内外の施設点検や物の整理整頓、見守り活動の強化等、安心安全な教育環境の整備を進める。</li> <li>◎引き続き食に関する指導や衛生管理、健康な体づくりを推進する。</li> </ul>	A	A
信頼される学校作り 保護者・地域から	学校便り、ホームページ等を通じた情報発信や、懇談会等保護者・地域との連携	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・参観や懇談、学校だより、学年だより、ホームページ、一斉メール（マチコミメール）等で積極的に情報を発信した。学校一斉公開日の際に、民生委員児童委員との懇談会を開催した。また、見守り隊の皆様への感謝の会と懇談会を開催した。地域と共有感をもつ取組を進めた。</li> <li>◎さらなる情報発信・収集・共有の方法の工夫をしていく。</li> </ul>	A	A

	地域の人材や施設、環境などの教育資源を活用した取組	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>外部講師を積極的にお招きし、児童の学びが深まった。また、消防署や郵便局、情報図書館、校区のお店等にも見学や取材に行くなど地域の方々にも多くの協力をいただいた。防災学校の際には、校区の自治会の方々にも参加いただき、避難所運営ゲームを6年生と一緒に行った。</li> <li>◎今後も地域や外部の資源を確保し、より効果的な教育活動を進めていく。</li> </ul>	A	A
小中一貫教育	小中一貫教育における小中連携、小小連携、幼保こ小連携の促進	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>小中一貫教育が本格実施となり2年となった。6つの部会に分かれ、積極的に連携を図ってきた。また、「野幌中学校区小中一貫教育HP」をタイムリーに更新し、取組の発信も進めてきた。「野幌中学校区学習のきまり 重点目標」や「生活のきまり」のスタンダードを作成した。</li> <li>小中連携では、6年生の中学校体験や部活動体験、吹奏楽部によるふれあいコンサート、学習サポートDAYのボランティアを実施した。小小連携では、情報大との連携によるプログラミング学習を各校で実施した。</li> <li>幼保こ小連携については、学校一斉公開日の際に、幼稚園や保育園の園児と職員が見学に来ていただいたり、スタートカリキュラムを見ていただいたりして連携を図った。</li> <li>◎めざす子ども像「夢に向かい行動する子」の実現に向け、さらなる小中連携、小小連携を進めていく。幼保こ小の交流も、できるところから取り組んでいく。</li> </ul>	A	A

【評価項目の設定、達成状況及び改善の方策に関する学校関係者評価委員の意見】

- 授業参観において、タブレットを効果的に活用したり、物語の中での人物の心情を深く考えたりする授業をしていて感心した。また、スライドショーを拝見した際、多彩な学校行事が実施されていることがわかった。
- 入学式や卒業式、運動会、学習発表会、授業参観と年何回か学校を訪れた際、若葉の子どもたちの元気な顔を見ることができ、楽しそうなよい学校だと感じた。
- 若葉っ子の印象は「明るく元気」「活発」「生き生きしている」「自由」等、“陽”のものがほとんどだが、集団の中には必ず性格や個性の差、能力の差がある。上記の印象も、もしかすると必ずしも全体を表すものではないかもしれない。自分を表現できず、「わかりません」と言えない子どもたち…。そういう子どもにもこそ目を向け、親身になってかわり、置き去りにしない教育を望む。
- いじめの定義が変わっていることに驚いた。いじめアンケートを年3回していただいていることにありがたく思う。少しでもいつもと様子が違うと思うことがあれば、積極的に声をかけてもらえるとうれしい。
- 登下校時、時々危険な様子を見かける。より一層見守り活動を強化することが必要である。
- 近年新しい家が建ち、児童数も多くなり、それに伴い何かトラブルが起きないかと心配していたが、そのようなことはなく、かえって公園などでみんなで楽しそうに遊んでいる姿を見ることができた。町内会としても「保護者・地域から信頼される学校づくり」のために様々な行事を開催していきたい。
- ICTをもっと活用してもよいと思う。週1回の持ち帰りを週2回にしてみてもよいと思う。
- ふれあいコンサートがととてもよかった。これからも小中一貫教育事業として続けてほしい。

【評点】 A：よい B：おおむねよい C：ややよくない D：よくない